

○司会（武市財務局長） 東京都トラック協会の皆様でございます。よろしくお願いいたします。

（東京都トラック協会 入室）

（要望書手交）

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。それでは、どうぞご着席をお願いいたします。

それではこれより、東京都トラック協会の皆様との来年度予算に向けましたヒアリングを始めさせていただきます。それでは、冒頭、知事からお願いをいたします。

○小池知事 座ったままで恐縮でございます。本日、千原会長をはじめとするトラック協会の皆様がずらっと顔をそろえてお越しいただきました。誠に感謝申し上げます。また、大会にもお招きを賜りまして、いつも皆様方大変熱気あふれる大会に感動しているところでございます。

言うまでもなく、貨物輸送の中心的な役割を果たされているということから、また、安全輸送、輸送秩序の確保や環境配慮にも、いつも大変ご協力いただいております。人手不足の中でのさまざまな知恵を出していただいたりという点や、また、いざというときには救援物資などの輸送で指定公共機関として多大なるご貢献もいただいております。心から敬意を表したく存じます。

東京都として、スマートエネルギー都市の実現ということにも向けておりますので、エコドライブの推進、アイドリングストップの徹底などなど、これからもますますご協力いただかなければならないところが多々あるかと思えます。

来年度予算を編成するにあたりまして、直接、皆様方からご要望を伺わせていただいて、そして、都民にとってのプラスの予算作りを進めてまいりたいと思えます。短い時間ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

○司会（武市財務局長） ありがとうございました。では、会長のほうからよろしくどうぞお願いいたします。

○東京都トラック協会 ありがとうございました。ただ今ご紹介いただきました東京都トラック協会の千原でございます。日頃から、小池都知事をはじめ都庁の皆様には、事業に多大なるご理解とご協力を賜りましてありがとうございます。心より御礼を申し上げます。また、先日は、先ほどお話がございましたように、関東トラック協会事業者大会に小池都知事にご臨席を賜りましてごあいさつを頂戴いたしました。厚く御礼を申し上げます。

さて、本日は時間も限られておりますので、要望の中から2つだけ説明をさせていただきます。

まず、首都直下地震における緊急輸送支援システムの再構築についてです。知事にご臨席を賜りました9月の関東トラック協会事業者大会では、災害時等の相互応援に関する協定書を国土交通省関東運輸局長の立ち合いの下に締結いたしました。約4500万人もの人口を有する関東圏でございます。地震などの大規模災害が発生した際、被災者への救援物

資を迅速・確実に輸送できるよう、各都県のトラック協会が人員や車両の相互運用を行う体制を構築したものでございます。災害時にはトラック輸送が主力となり、東日本大震災では東京都、区市町村の依頼で延べ六百数十台が緊急支援物資を被災地に届けました。

しかしながら、東日本大震災では都心区部が大渋滞をしておりまして、帰宅困難者を受け入れ、施設に支援物資を届けるのに十数時間を要した次第でございます。首都直下型地震では道路の陥没、家屋・電柱の倒壊など、相当深刻な交通障害が想定されております。従いまして、これまでの想定のように、海・川からの物資を機関的公共防災拠点に運び、トラックで区部や多摩の被災者に運ぶことは非常に難しく、困難なことだろうと想定されております。むしろ関東一円を網羅します圏央道周辺に広域防災拠点として平屋建ての集荷・集積施設を新たに建設し、圏央道から都内に支援物資を運ぶようにするのが効果的だと考えております。首都直下型地震では輸送を担当する我々、トラック事業者も被災者となるわけでございますので、他県からの車両の確保が不可欠な状況になるかと思われま

す。2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。たくさんのお客様が海外から来訪されます。東京に安心して来ていただくためにも防災面の強化が大変必要で不可欠だと考えております。震災時の緊急支援物資輸送には、行政とロジスティックスの専門家との緊密なる連携が不可欠でございます。例えば、コーディネーターとかを考えております。昨年も、首都圏直下地震における緊急輸送支援システムの再構築をお渡しいたしました。小池都知事にぜひ、ご検討をお願いしたいと思っております。

次に、圏央道周辺の平屋建て集荷・集積に対する支援についてでございます。東日本大震災におきまして今後のモデルケースとされます、岩手県の岩手産業文化センターの経験から、大型車が直接、建物内に入ることができ、荷さばきができる中核的な集積拠点として平屋建ての集荷・集積施設の建設は地震に対する備えとしては非常に効果的なことが立証されております。熊本地震では防災拠点であるグランメッセ熊本自体が被災をしてしまいました。熊本県庁に災害支援物資が集積してしまう事態となりました。

防災拠点自体が被災することを想定し、万全の体制を取ることが求められていると思います。防災拠点を単線的ではなく、複線的な体制としてバックアップする相互補完拠点の整備はリスクマネジメントの観点からも重要だというふうに考えております。防災施設は一義的に行政として東京都が整備することをぜひお願いしたいというふうに思っております。

しかしながら、いつ来てもおかしくない首都圏直下型の緊急性に鑑みまして、一般社団法人東京都トラック協会でも、その社会的使命感から、首都直下地震に対して効果的な圏央道周辺に平屋建て集荷・集積施設の建設を検討しているところでございます。この平屋建て集荷・集積施設は公共性・公益性が非常に高く、都民の生命を守るためにも必要不可欠な施設であることから、施設用地の確保などについて、小池都知事にぜひ、ご検討をお願いしたいというふうに思います。以上でございます。よろしくお願いをいたします。

○司会（武市財務局長） ポイントを絞ってのご要望、どうもありがとうございました。

それでは、まず初めに知事のほうからお話しさせていただきまして、その後、都技監のほうからも補足説明させていただきたいと存じます。

○小池知事 的を絞っていただき、ありがとうございます。また、ご要望書のほうにはいろいろとリストアップされているようでございますので、また、担当のほうからもお答えさせていただこうと思います。

つい一昨日ですか、『シン・ゴジラ』の映画がまた地上波で放送されて、東京をよくぐちゃぐちゃにしてくれるなという感じで暴れ回っておりました。あのときにどのような形で首都の中核機能を守るかということが、ただ楽しむというだけではなくて、映画の大きなテーマではなかったかなと思っております。

そういう意味で首都直下地震の緊急輸送システムの再構築にしろ、平屋建ての集荷・集積施設に対する支援にしろ、ロジスティックスをどうやって有事の際にも確保していくのか、また、平時によりスムーズにしていくのか、そういうご指摘だと思います。支援物資を迅速に、また、確実に被災者に届けるという体制の確保は、これまで幾つか災害を見てきた中においても大変重要でございます。この点については、担当の局からよく話を聴きながら、都民の安全・安心がどうやって確保できるのか、しっかり検討していきたいと思っております。

平屋の集荷・集積施設の建設についても同様でございます。今後のロジスティックスを確保するという観点からも、東京都として何を果たすことができるか、これも考えてまいりたいと、このように思います。大変重要なご指摘をいただきまして、誠にありがとうございます。私からは以上です。

○司会（武市財務局長） ありがとうございます。それでは、東京都技監、お願いをいたします。

○邊見東京都技監 お世話になります。圏央道はお話のように、非常に役割が高まっているということで、今年の初めには東名から東関道までつながったということであります。こうしたネットワークを活用して、既にさまざまな施設が立地しているということであります。特に、これもお話のように、災害時に緊急物資を輸送するということは、東京の防災力を高めるという上で非常に大事なことだと考えてございます。圏央道周辺ではこれまでも、地元自治体のまちづくりと連携して、開発が行われてきていますし、これから進んでいくものもあるという状況になっております。

施設の用地確保ということであります。都市計画など、我々は必要な、あるいは、可能な手続きですとか、地元市との調整など、お手伝いさせていただくことが考えられると思っております。どういう施設を造るか、あるいは、どのような機能を持たせるか、防災に関わることでもありますので、総務局とも一緒になってお話を伺っていきたいと考えてございます。以上です。

○司会（武市財務局長） ありがとうございます。他にあと、何かありますか。会長のほうから、あるいは、ご臨席の皆様から、何かありましたら。

○東京都トラック協会 何かありますか。ないようでしたら、ちょっと私のほうから。

大変ありがとうございます。今、知事からも、先行きが多少明るいお話をいただきまして、やはり、東京都トラック協会そのものが東京で被災しますと動けないんですね。そうすると、やはり他県のほうから応援をいただきたいというのが、これはもう都民を守る1つの筋になっちゃいます。そういうことになればやはり、どこかにそういう施設がないといけないということでございます。

もう一つ、先ほど、書いてはいないんですけれども、コーディネーターというお話をしたんですが、なんでそれをしたかといいますと、いろんな区のほうで話を伺っていきまして、やはり申し訳ないんですけれども、車の扱い方をなかなかご存じじゃないと。我々でしたらこういう扱い方をするのに、東京の人たちに車をどんどん出してくれと言ったって、それは無理ですよ。やはり我々がやりたいのは、トータル的に日本全国を鑑みただ中で、大阪から来ている車があれば、大阪の車を使うし、名古屋から来ていれば使うし、北海道から来ていれば使うし、そういうふうなやり方すら、我々のほうがまだ熟知しているなど。そこら辺についてはプロでございますので、ぜひご利用をいただきまして、コーディネーターという中で入れていただければ、もっとスムーズに都民を守ることができるんじゃないかということをお伝えしまして、私どもからは、これから先、よろしく願いをしますということで、今日は終わらせていただきたいと思います。

○司会（武市財務局長） 貴重なご意見、どうもありがとうございました。では、よろしゅうございましょうか。それでは、以上をもちまして、東京都トラック協会の皆様との意見交換を終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

（東京都トラック協会 退室）

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。それでは続きまして、東京都信用金庫協会の皆様でございます。よろしくお願いいたします。

（東京都信用金庫協会 入室）

（要望書手交）

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。それでは、どうぞご着席をお願いいたします。

それではこれより、東京都信用金庫協会の皆様との来年度予算に向けた団体要望ヒアリングを始めさせていただきます。まず、冒頭、知事からお願いをいたします。

○小池知事 座ったままで恐縮でございます。神保会長をはじめとする東京都信用金庫協会の皆様方、来年度予算の編成にあたりましてご要望を伺うということで、公開にてヒアリングをさせていただきます。わざわざお越しいただきありがとうございます。

地域の中小・個人事業者の経営をお支えいただいているということで、地域経済にはなくてはならない動脈の役目を果たしておられると思います。東京都が都内で一層の創業支援、廃業よりも創業のほうが少ないというのが続いておりましたけれども、これはやっぱりここは業を起こしてもらわないと、ということで、「女性・若者・シニア創業サポート事

業」等を始めているところでございますが、多大なご支援、ご協力をいただいております。あらためて感謝申し上げます。これからも、この創業支援、そしてまた、ものづくり、匠の技術、こういったことがきちんと事業承継もできるということがやはり、東京にとりましても、また、日本の産業にとりましても不可分ということでございまして、これからますます地域経済の活性化と実効ある手立てを講じていきたいと考えております。そういった意味で皆様方と今後、何をなすべきなのか、個人事業者、中小の事業者、新たな世代への引き継ぎ、これらについて皆様方の忌憚のないご意見を、短い時間ではございますが、お聴かせいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○東京都信用金庫協会 まず最初、小池知事に対しまして、昨年に引き続き、このような機会を設けていただきましてありがとうございます。また、信用金庫業界の業務の運営と推進に対して厚いご理解をいただきまして、重ねて御礼を申し上げます。

簡単ですけど、我々の取引先の状況でございますけど、私ども、毎年、約9000社に向かって景況調査を行っております。全般的には上向いているというものの、私どもの取引先は7-9のDI値でマイナス6.4と、まだまだ水面下。その中でも建設業と不動産業はいいですけど、他はまだ非常に厳しい状況が続いていると。私どもの取引先は10人未満が7割、5人未満が5割というような状況、その底辺を支えているのが信用金庫の取引先だということを、まずもってご理解をいただきたいと思います。

そして、東京都におかれましては、中小企業と小規模事業者に対する施策を積極的に実施されておりますが、上記のような都内の中小・零細企業の現下を鑑み、引き続き、自働な経営支援に加えて、創業、事業承継、それから、人材の育成につきましても、積極的にこれからもご支援を一つ、お願いをしたいと思います。それでは、具体的に私どもの要望を申し上げたいと思います。

まず最初、地域を支える中小企業・小規模事業者の支援の強化・拡充についてでございます。先ほども言いましたけど、現況下では非常に私どもの中小・零細企業は実感に乏しいものが続いております。このため、東京都におきましては、先ほども知事が言っていたけど、廃業が多い状況下、引き続き、創業、事業承継、そして、人材の育成等の施策に対して積極的に対応していきたいと思っています。そのためにも、創業等に関する制度的な融資・助成をなお一層お願いをしたいと思います。

それから、東京都におきましては非常に多彩な中小企業・小規模事業者に対する支援策を行っていますが、まだまだ多くの事業者はその施策がなかなか伝わっていないのが現状じゃないかと思っています。発信力の問題だと思っています。信用金庫におきましても、積極的にお取引先の課題解決に向かって取り組んでおりまして、ご存じだと思いますけど、各種のセミナー、相談会、いろんなことを多数開催しておりまして、その席上でも行政のいろいろな施策についてPRをしているところでございます。中小企業や小規模事業者に対する東京都のPRの場として一段と活用していきたい、信用金庫も本会が受託しているよろず支援拠点が実施する相談会やセミナーについても、東京都において周知や集客ならびに

多方面について助成のご協力をいただきたいと思います。

具体的には、中小企業・小規模企業の経営の相談会とか、セミナーを各金庫が多々やっております。年間を通じて何百回とやっている状況だと思っています。その助成についてもご検討いただきたいと思います。また、信用金庫が催す、中小企業の販路拡大、この間も、私どもは新宿の西口でさせていただきましたけど、ビジネスマッチングとか、そういう交流会に対するいろいろな支援、そちらのほうもお願いをしたいと思います。

それから、都内の信用金庫では国の「マネジメント・メンター制度」を活用し、取引先の中小企業・小規模事業者の課題解決に向けて大企業のOBを専門家として派遣すべく、ご存じだと思うんですけど、「新現役交流会」、中小企業経営者と大企業に勤務していましたOBのマッチング会を今、開催しているところでございます。この取り組みは、課題解決の方法として、私どもの取引先からタイムリーに一番効果があるということで非常に喜ばれております。

この取り組みは中小企業の経営者に大変喜ばれているにもかかわらず、国の予算の関係で対応企業数ならびに相談回数が限られております。私どもは数回やりたいんですけど、年に1回しかできないのが現状でございます。このため、新現役の派遣などの柔軟な専門家派遣事業を東京都の予算で補完するなど、また、国と東京都が連携して、この業務についてご検討いただきたいと思います切にお願いする次第でございます。

すなわち、新現役派遣等の専門家派遣事業に対する東京都の予算での補完制度、そして、創設をお願いしたいというのが具体的なお願いでございます。

それから、多種多様な中小企業政策の効果的な運用のため、中小企業に政策情報の周知を図るとともに、人的資源が乏しく、さまざまな業務に忙殺される経営者のために補助金・助成金の拡大をお願いしたい。それから、その制度の簡素化をしていただきたいと思います。中小企業の経営者は、大企業と違いまして、そういう専門的な部署の方がおりませんので、私どももいろいろな形で手助けをしておりますけど、ぜひ、東京都のほうからお願いをしたいと思いますので、よろしくをお願いしたいと思います。

それから、中小企業経営者の平均年齢が高齢化する中で、地域を支える中小企業の事業承継の問題は喫緊の課題であります。やっぱりこういうものは、経営者に対してお話をしますと、「もう俺はそろそろか」と、そういうふうないろいろイメージを持たれますので、長い目で見た事業承継の道筋を付けたいと思いますので、それに対しての十分な時間が必要だと思いますので、その理解面においてのご協力、そういうものの発信をしていただきたい。それから、事業承継にかかるいろんな相談会とかなんかをやっておりますので、その費用面についても助成、費用の面ばかり申し上げて申し訳ないんですけど、その点についてもお願いをしたいと思います。

それから、制度融資利用の小規模事業者に対する信用保証料の補助の枠の縮小、これは絶対にしないでいただきたい。これはもう、小規模企業・零細企業のたつてのお願いでございますので、よろしくをお願いしたいと思います。

それから、次の件は、ぜひ、早期の実現をお願いしたいのですが、都内金融機関窓口における都税と公金のバーコード収納、コンビニができて金融機関ができないというのは、非常に、一般の私どもの取引先から考えると、腑に落ちないということで、早期の実現をお願いされている次第でございます。窓口に来ると、やっぱりいろんな手続きで時間がかかるんですね。そういう面で利用者の利便性を考える一番の道なので、これはもう絶対に来年度、実現をしていただきたいと、これは切にお願いする次第でございます。

次に、創業の促進と支援策の拡充についてでございます。先ほど、小池知事からも話がありましたけど、東京都から受託しております「女性・若者・シニア創業サポート事業」においては、創業の実務にたけたNPOによるアドバイスや税理士の方々からのいろんな形で途中のフォローやなんかもいただいております。創業前のフォローもいただいております。その面について、いろいろまた、費用の面やなんかがかかりますので、その面のほうもトータル的に考えていただきたいと思っております。

それから、「女性・若者・シニア創業サポート事業」は信用金庫の取り組みも進みまして、平成29年9月までで606件、37億円の融資実行をしております。どこの信用金庫も、今、力を入れておるところでございます。ただ、本制度によりいただいております預託金は、融資実績を検証した上で不要とし、過分とされた預託金額は平成29年度に東京都に返還することとなっているということでございます。しかしながら、今のような創業制度を着実に利用・実施を進めていくためには、過分と判断させずに、その預託金の返還で減ずることなく、現状維持していただきたいというのが、私ども、信用金庫業界の切なる願いでございます。

それから、創業サポート事業における融資原資預託金の現状維持および必要な予算措置の確保をまた、お願いをしたいということでよろしくお願いしたいと思えます。

もう一つ、これに関しまして、創業者がデフォルトした場合の預託金返還免除に関する金額は、現状は預託金総額の5割になっていますけど、これについて、他の制度融資と同じような保証枠の水準まで引き上げをお願いしたい。保証協会とか何とか、いろいろありますけど、その点だけは、いろんな形でリスクを取って、私どもも積極的に地域のため、いろんな形で空洞化しないためにやっておりますので、ぜひ、ぜひ、一つ、お願いをしたいと思っています。

最後に1つ、高齢化社会の問題についてでございます。東京都においては、他の都道府県に比べて、人口減少の割合は低いものの、高齢化の速度が非常に進んでおります。また、いろいろな形で私どもも、現在、後見人制度に力を入れております。認知症の問題もありますので、それに対してのいろいろなセミナーとか、費用を、現在、東京家庭裁判所と後見支援預金の導入の検討やなんかも進めて、信用金庫のOBの人材の活用、いろいろ経験がありますので、そういう活用をしておりますので、多々いろいろ面を絡めて支援と、それに対する助成、これからの喫緊の課題だと思っておりますので、この点に関してもお願いをする次第でございます。

今回は、いろんな要望ばかりでございますけど、まず、多くの実現に向けて、ぜひ、ぜひ、ぜひお願いをしたいと思いますので、これからも我々、信用金庫の業務に対してより一層のご理解をいただきながら、行政さんと共に手を携えて、地域のため、社会のため、まい進していく所存でございますので、今後ともよろしくお願いいたします。今日は本当にありがとうございます。

○司会（武市財務局長） 中小企業施策ということで、その中で多面的・多角的にご要望をいただきました。それでは、まず、知事から、その後、局長から何点かお話しさせていただきます。

○小池知事 ご要望を聴く会なので、ご要望をいっぱい聴かせていただきました。幾つか、共通する部分がございますが、基本的に制度融資の一段の充実、中小企業経営者への啓発活動であるとか、事業承継への助成などなど、まさしく、その地域の中小・零細企業を支えるためのさまざまな施策についてご要望がございました。担当の局からもしっかり話を聴きながら、中小企業を支える職場づくりの後押しをしてまいる所存でございます。

それから、東京の産業を支える中小企業の事業承継、これをどういうふうに進めるのか、廃業に至ることのないようにということのためには、早期の事業承継への順番立てというか、何をすべきかというのをきちんと早め早めにお伝えをする点が必要かと思います。そういった点でのPRも含めてですけれども、後押しをしていきたいと思っております。

それから、事業者のライフサイクルに応じた支援、これも同じことかと思っておりますけれども。ぜひ、この目標として、都内開業率10パーセントというのを目指して、廃業を何としましてもうまく事業承継へ持っていくと同時に、新しく開業する数も10パーセント増やしていくと、そのために必要なインキュベーション等も含めてですけれども、支援を行ってまいりたいと思います。

それから、ご協力いただいております、「女性・若者・シニアの創業サポート事業」、これについても、枠の引き上げのご要望でございます。この事業の要件などについて、局からもしっかり話を聴いていきたいと、このように考えております。

それから、幾つかおっしゃっていたところで有効だなと思ったのは、やっぱりOBの方をどうやって活用するか。大企業にいらしたOBの方、信用金庫の他、皆様方の業界にいらしたOBの方、やはりこの知恵と経験をどういうふうに生かしていくかというのは、その方にとってもいいですし、社会にとってもいいし、いいご指摘をいただいたと思います。私からは以上です。

○司会（武市財務局長） ありがとうございます。それでは、お願いします。

○藤田産業労働局長 いつもお世話になっております。

先ほど、よろず支援拠点の周知も含めてということでございますので、これは私どもの助成金制度の周知も含めて、まだまだ十分ではない部分があると思いますので、引き続き、周知に努めたいと思いますし、記入例等々も結構、見直しはしてきているところではあるんですけれども、なかなか公金の支出ということもございますので、その辺もアドバイス

とか、書き方見本とかを分かりやすくしたいと思っております。

それから、先ほど、OBのマッチングというところも知事からもご発言がございましたので、この辺はまた国との連携も含めて研究をしてみたいというふうに思います。

それから、制度融資で弾力的に運用改善ということですが、これは毎年、中小企業、金融機関、ご利用者様にアンケート調査を実施しているのと、また、金融機関等が一堂に会した会議の場で意見交換を行っていますので、引き続き、こちらのほうもやっていきたいと思っております。

それから、小規模事業者の信用保証料補助は何とか現状維持の形で頑張っていきたいというふうには思っております。

それから、「女性・若者・シニア創業サポート事業」の融資原資の平成29年度の取り扱いということですが、ここのところ、毎年上向きで融資を拡大していただいていますので、その辺の状況を見ながらしっかりと対応していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○土渕会計管理局长 いつもお世話になっております。公金のバーコード収納につきましては、現行がOCRのデータを使っているということで、そのデータを変換しなければならないという大きな課題がございます。今、信用金庫協会様としんきん情報サービス様におかれては、その辺の課題についてはご検討いただいているということですので、それらを踏まえまして、当局としても適切に対応してまいりたいと思っております。

○司会（武市財務局長） ありがとうございます。それではよろしゅうございましょうか。では、以上をもちまして終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

（東京都信用金庫協会 退室）

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。それでは続きまして、東京都中小企業団体中央会の皆様でございます。よろしくお願いいたします。

（東京都中小企業団体中央会 入室）

（要望書手交）

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。どうぞ、ご着席をお願いいたします。

それではこれより、東京都中小企業団体中央会の皆様との平成30年度予算ヒアリングを始めさせていただきます。まず、知事からお願いをいたします。

○小池知事 大村会長をはじめとする東京都中小企業団体中央会の皆様方にはわざわざ、今年も都庁にお越しいただき、誠にありがとうございます。もうこういう季節になったというか、今年は1カ月ほど前倒しでこのご要望を聴く会ということで設けさせていただいております。

東京都中小企業団体中央会の皆様方は、東京の産業・経済の基盤を支えていただいているわけございまして、東京の、そして、日本の経済のまさしく礎を担っていただいていると、このように認識しております。とはいえ、一方で産業、人口動態が大きく変わり、

高齢化をし、というような中において、これからも中小企業の皆さんが元気でいていただかなければならないという中において、皆様方のご要望、現場の声をしっかり受け止めていただきたいと思っております。時間が限られている中で恐縮でございますが、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

○司会（武市財務局長） ありがとうございます。それでは早速でございますが、よろしくどうぞお願いをいたします。

○東京都中小企業団体中央会 東京都中小企業団体中央会、会長の大村でございます。私の右側が高橋副会長、左側が堀内専務理事です。どうぞよろしくお願いいたします。

東京都にはこれまでも、東京都中小企業団体中央会の事業運営全般にわたり多大なご支援、ご協力をいただいております、この場をお借りしまして厚く御礼を申し上げます。また、本年度の予算につきましては、当会からの要望に関して特段のご配慮を賜りましたこと、改めて感謝申し上げます。

さて、本日は団体要望ということで、先ほど、知事に、『平成30年度東京都に対する施策要望について』という冊子と、「平成30年度緊急要望」というペーパーをお渡しさせていただきました。要望事項は、緊急要望も含め、全部で7項目であります、特に重要なもの、3項目に絞ってご説明させていただきます。

まず、お手元の1枚目のペーパー、「緊急要望」をご覧ください。重点要望の第1は、2020年に行われますオリンピック・パラリンピックに対しての「組合まつり in TOKYO」の開催規模等を拡充するための予算措置をお願いするものでございます。この事業は、都内はもとより、全国の中小企業組合から出展を募り、組合の知名度アップや販路拡大、また、地域の魅力発信の場として全国一体となった展示会を開催するものです。

本事業は東京都の支援を受けて、今年8月30日に初めて、東京国際フォーラムにおいて開催した展示会ですが、当日は88団体が出展し、1日だけの開催でしたが、来場者数は予想を上回る2500名と、大盛況のうちに閉幕いたしました。ここではさまざまな業界や地域の団体が一堂に会し、新たなビジネスチャンスの創出やマッチングはもとより、地方との共存共栄にも大きな成果を上げたと自負しております。これを裏付けるように、出展組合等からは、「早速、商談の引き合いがあった」といった声や、「来年もぜひ開催してほしい」、「1日だけの開催はもったいない」といったような要望が多数、東京都中小企業団体中央会に寄せられました。

こうしたことを踏まえて、東京2020大会を契機とする組合参画企業のビジネスチャンス拡大を力強く応援すべく、1、来年度の継続実施、2、日程を2日間に延長、3、出展スペースの拡大、以上3点を実現するための予算措置をぜひお願いしたいと思います。

次のお手元のブルーの冊子、『平成30年度東京都に対する施策要望について』の1ページをお開きください。重点要望は第2に、技術・技能継承事業の継続実施と支援内容の充実・強化をお願いするものです。この事業は中小企業組合が傘下の企業を対象に実施する、技術・技能の継承を目的とする実地研修やマニュアルの作成などの取り組みを支援するもの

でございます。近年、生産年齢人口が減少する中、熟練技能者の高齢化や若者のものづくり離れなど、東京の産業を支える優れた技術・技能の継承は、いまや危機的状況になっております。

こうした状況にもかかわらず、本事業は今年度をもって終了予定とされております。多くの中小企業にあっては、技術・技能の継承は極めて深刻な課題と認識されつつも、情報収集や資金力・人的資金に乏しく、自社単独での課題解決は困難な状況に置かれております。このため、中小企業組合を通して支援施策が大変効果的な方法であると思います。東京都中小企業団体中央会としては、むしろ、この事業の中に技術・技能の見える化や生産性向上に向けた取り組みなど、時代の潮流にマッチした新たな要素も取り入れながら、この充実・強化を図っていく必要があると考えており、所要の予算措置を強くお願いする次第であります。

次に4ページをお開きください。重点要望の第3は、「ものづくり・匠の技の祭典」の継続的实施や技能競技大会出場への支援拡充など、技能人材のスキルアップに対する取り組み強化を要望するものでございます。「ものづくり・匠の技の祭典」は今年度も8月に小池知事ご出席の下、継続実施されました。改めて御礼申し上げますとともに、来年度以降も引き続き実施することを要望する次第でございます。

ところで、若年技能者の技能水準の向上を図るためには、技能競技大会への出場などを通してお互いに切磋琢磨し、競い合うことが大変効果的です。そこで、技能競技大会に出場する選手強化への取り組みに対しては、実習用の原材料費や消耗工具費など、業界別の大会等を対象に事業主団体に奨励金が支給されております。しかし、技能五輪など、全国レベルの大会についてはごく一部の技能競技大会に支援が限定されているのが現状です。このため、技能競技大会に出場する選手を抱える中小企業に対する助成を拡充するなど、支援施策の一層の充実を図る要望をする次第でございます。

以上で、私からの説明は終わらせていただきます。よろしくお願いいたします。

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございます。要点を絞って、非常に分かりやすくご説明いただき、ありがとうございます。それでは、知事、お願いをいたします。

○小池知事 それでは、私のほうから緊急要望を含めて、東京都としての考え方をお伝えしていきたいと思います。

まず、「組合祭り in TOKYO」でございますけれども、この開催規模の拡充ということのご要望でございます。平成27年度に「世界発信プロジェクト」という必要な経費について、中小企業振興公社に対しては20億円一括して出ささせていただいたところですが、中小企業の知名度のアップ、そして、ビジネスチャンスの拡大というのは大変重要な取り組みでございますので、引き続き、都としても必要な支援を行っていきたいと考えております。

それから、技術・技能の承継そして発展に向けた支援策の実施についてでございますが、都内の産業を守りというか、持続的に成長していただく、そしてまた、そのために活性化をしていただく、そのためには競争力を強化していただかなければならないということで

ございます。中小企業が培ってこられた、これまでの技術・技能・ノウハウを受け継いでいくというのは大変重要な課題、もう肝でございますので、都としてもしっかり対応していきたいと考えております。

それから、技能の尊重機運の醸成ということと、若年の技能者の育成について、これも同様の趣旨かと存じます。東京都としての支援を行っていきたいと考えております。私の方からは以上です。

○司会（武市財務局長） ありがとうございます。いただいたご要望に対してのご回答はまずは以上でございますが、最後に何か、会長なり、皆さんからあったら。よろしゅうございますか。どうもありがとうございました。それでは、東京都中小企業団体中央会の皆様との意見交換、これをもちまして終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

○東京都中小企業団体中央会 ありがとうございます。

（東京都中小企業団体中央会 退室）

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。それでは、東京商工会議所の皆様でございます。よろしく願いをいたします。

（東京商工会議所 入室）

（要望書手交）

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。それでは、どうぞご着席をお願いいたします。

それではこれより、東京商工会議所の皆様との来年度予算に向けた予算要望ヒアリングを始めさせていただきます。まず、冒頭、知事からお願いいたします。

○小池知事 つい先週でございますが、皆様方から直接のご要望そしてまた意見交換を行わせていただきました。大変充実した時間となったかと思えます。ありがとうございました。

今日は大久保副会頭はじめ皆様方、改めてお越しいただきましてありがとうございます。来年度予算に向けましてのヒアリングということで、短い時間ではございますが、ぜひ、忌憚のないご意見を伺わせいただければと、このように考えております。

商工会議所の皆様はもう本当に大企業から中小の皆様方から、幅広いということでございますけれども、いずれにせよ、国際金融そしてまた経済都市である首都・東京を支えていただいているわけございまして、しっかりとこれからも人手不足の問題、高齢化の問題、人口減少がこれからやってくる、特に2020年のオリンピックのその後をどうするのかといったような課題がございます。しっかりと連携させていただいた上で首都・東京をいつまでも持続可能な、成長可能な都市にしていきたいと考えております。短い時間ではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

○東京商工会議所 よろしく願いします。

○司会（武市財務局長） では、副会頭、よろしくどうぞお願いいたします。

○東京商工会議所 東京商工会議所で副会頭ならびに中小企業委員会の委員長を拝命しております大久保でございます。よろしくお願いいたします。

今、知事からありましたように、東京は本当に景気もだいぶ回復してきて、中小企業の受注もどんどん増えているわけでございますけれども、幾つかの問題が出ていまして、一番の大きな問題が人手不足問題だと思っております。特に2025年以降は、今、知事のお話があったように、人口減少に転ずるということで、この問題はますますもってクローズアップされる問題ではないかと思っています。

そういった中において中小企業は人手不足でございますから、生産性向上というものをやっぱりやっていかなくちゃいけないと。そのためにはIT化がどうしても必要でございますけれども、そのIT化をするための人材ならびに設備投資資金というものについて、中小企業には十分なものがないということ。重ねて、事業承継問題もこれからやってくるということで、中小企業の経営状況というのは、一層の改善と課題がもう山積みしているというふうに認識しています。

ただ、悪い情報ばかりじゃなくて、東京商工会議所で毎年やっています「勇気ある経営大賞」というのがあるんですけど、たくさんの企業がイノベーションによって新しい商品・サービスの開発をどんどんやっています、そういう面では元気な企業もたくさんあるということを併せてお伝えしておきたいと思います。

そういった中でこれから、将来に対するビジョンというものをしっかりつくっていきなかならんと思っているわけですが、知事が昨年12月に出した「2020年に向けた実行プラン」を、ぜひ目標達成に向けて、政策を加速的にお願いしたいということを強くお願い申し上げます。

同時に、6月に東京商工会議所で行いました「中小企業対策に関する重点要望」、これを来年度予算の中にしっかりと反映していただきたいと思っております。私たちも、地域の総合経済団体としてしっかりと知事を支え、知事の掲げた目標達成に向けて全力を尽くしてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それと、ちょっと余談ですが、前回、知事がテレワークという問題をお話しされましたけど、在宅勤務というのは日本の現状を考えると、非常に厳しい問題もあるわけですね。家庭環境の問題とか、女性の子育ての問題とかを考えると、ですから、どうしても、それをやるために、1つはサテライトオフィスというのがキーだと思うんですね。サテライトオフィスを東京都がいかに増やすかということが、テレワークを実現するためには最も大事じゃないかと考えていますので、その辺もぜひご検討願いたいということと同時に、大手企業はいいんですけれども、中小企業の場合はセキュリティー対策が十分ありません。そういった企業が情報を持ち出してサテライトオフィスだとかで仕事をやりますと、情報漏洩問題というのがどんどん起きてきます。

ですから、まずはテレワークを実現するために、中小企業のセキュリティー対策というものをきちっと指導するというのが前提であると同時に、いわゆるサテライトオフィス

をいかに増やすかということが、知事のおっしゃったテレワークの実現に向けては大事じゃないかということを一言申し述べておきたいと思っております。詳しい内容については、今から石田専務理事よりご説明申し上げますので、よろしくお願い申し上げます。

ありがとうございます。それでは、お手元にお配りしています、「東京都に対する重点要望」のこの横長の大きな紙でございますけれども、この上の部分をまず、見ていただきまして、東京都の中小企業が直面する大きな課題ということで、幾つかご紹介をさせていただきたいと思います。

1つは、中小企業の6割が人手不足を訴えているという状況です。大変深刻な状況だというふうに思っています。また、これに対応するためにICTを活用した生産性向上、これは非常に有効ではあるわけですが、今、副会頭が申し上げたように、費用面あるいは専門人材の不足といったところで、なかなか中小企業にとって取り組みが進んでいない所も非常に多いという状況でございます。

それから、事業承継につきましては、ここには書いてございませんけれども、経営者の年齢ピークがこの20年間で約20歳上昇していると、今、67歳に達しています。そういう意味では、今後5年から10年の間に多くの中小企業が経営交代期を迎える、いわば大企業承継時代が参ることは必至なわけですが、一方で、中小企業の経営者というのは、目の前の経営課題に解決にどうしても目がいって、事業承継が先送りされてしまっているという状況でございます。こういう中で経営者の意識改革をいかに促して、早期に事業承継に向けた具体的な行動をとってもらえるかということが非常に大きな政策課題にもなっているというふうに考えています。

東京商工会議所としては、この深刻な人手不足、生産性の向上、円滑な事業承継、この3点を喫緊の重要課題ということで、この6月に東京都のほうに要望させていた要望書の中でも、重点項目として取り上げさせていただいています。

それから、右上の所に、それに加えて、2020年大会を契機にした東京の国際競争力強化、これに向けた取り組みにつきましても、併せて要望を幾つかさせていただいております。その中身については、常務のほうからご説明をさせます。

常務理事の西尾でございます。いつもお世話になっております。ありがとうございます。それでは、お時間の関係でちょっと早口になるかもしれませんが、この要望の所をお話しさせていただきたいと思います。

今、石田専務理事のほうから、3つの課題ということで話をいただきましたけれども、今年度、中小企業の要望として大きなテーマは、2020年そして2020年以降の東京の未来に向けた中小企業の活力強化をということで、中段のほうに書かせていただいております。これに沿った形で大きくは3つに分けております。

1つは、都内GDP120兆円の達成に向けた中小企業の成長ということで掲げさせていただいています。特に、今まで話が合ったように、生産性向上には非常に大きな問題があります。経営者自身はIoT等々の技術を持って生産性を上げたいという意欲はあるんですけれど

も、なかなかいないというのは、やはりIT、ICT関係の専門家の人材がなかなかいないということが挙げられるのかなと思っています。ただ単にコンサルタントとか、専門業者じゃなくて、日本に一番不足しているのはやはり、企業内の現場をよく知る方々がITを知ることが一番大事じゃないかと今、思っています。ですから、そういうことを含めた形の人材教育をお願いしたいというところが第1点の所を書いてございます。

それから、第2点の中小企業の人手不足の解消ですけれども、これについてもやっぱり、中小企業の魅力の発信をどんどんしなきゃいけないということでもあります。それからまた、インターンシップの関連等々もございます。そういったことを東京都さんと一緒になって我々もやっていきたいと思っておりますし、また、今、デュアルシステム、六郷工科高校等でなさっておりますけれども、工業高校だけでなく、サービス業の面から言えば、やっぱり商業高校も一緒にインターンシップなんかも進めていかれたら、非常にうれしいのかなと、私どもは思っています。その辺のご支援もお願いしたいという点でございます。

それから、3番目に、中小企業の生産性向上に資する税制の実現ということで、これは3年ごとに見直しがございます、商業地域における固定資産税の問題が今度、出てくると思います。その辺の軽減措置の継続・拡充をまたお願いしたいというところが書いてございます。

それから、右のほうにいきますと、2番目として、創業・事業承継などの企業の成長ステージに応じた支援の強化ということでございます。先ほど、専務理事からもお話があったように、やはり事業承継は非常に大きな問題として挙がっております。今、国のほうの税制調査会等でもいろんな議論がなされておりますけれども、そういった税制とは別に、どうやったら事業が継続できるのか、その対策の問題も非常に大事なかなと思っています。そのためにはやっぱり、経営者に気付きを与えるというふうな点も非常に重要かと思っていますので、その辺の気付きを与えるPRとか、そういったものも含めて、東京都さんと一緒になっていけばありがたいというふうに感じております。

それから、3点目が日本の持続的な成長をけん引する東京の国際競争力強化ということで、国際競争力強化に向けた着実なインフラの整備、このほうもお願いしたいと思っております。国家戦略特区を活用した国際ビジネス環境の整備、これも必要でありますし、また、まちのにぎわいという点も必要かなと思っております。

それから、インフラの中では陸海空の交通ネットワーク、この面も必要になっております。練馬から東名、東名からまた、その以南というふうな所の外環道の整備・促進のほうも、従来からお願いしておりますけれども、その辺もお願いしたい点ではございます。もちろん、港湾についても同じだと思います。実際に東京港を私どもは見てまいりまして、やはり海外からいろんな輸入品が入ってくるというふうな所、特に東京は雑貨品が多いんですけれども。日本みたいな島国はやはり、物品の9割以上が全部、船で入ってくるわけですね。だから、その辺から言えば、やはり港湾の整備のほうもまた、お願いしたいし、また、観光、大型クルーザーが停泊できるような所、今、整備されていますけれども、そ

の辺もお願いしたいと思っております。

それから、最後にオリンピック・パラリンピックについては、また一緒になって情報提供をいただきながら進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

それから、「2020年に向けた実行プラン」については、もう私どものほうもパブリックコメントのほうをさせていただきました。一つ、よろしくお願いいたします。以上でございます。

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。それでは、まず初めに知事からお願いいたします。

○小池知事 詳細なご要望を伺わせていただきました。と同時に、「2020年に向けた実行プラン」につきましても言及していただきまして、誠にありがとうございます。3つのシナリオをつくるというのが私の大きな政策の柱でございまして、ぜひご協力のほど、今後ともよろしくお願いいたします。

人手不足の話でございますけれど、昨日もラーメン屋さんのチェーン店が人手不足でお店を閉めるとか、やっぱりサービス業でもうそうやって人手不足が進んでいるということ象徴しているかのような気がします。

そして、人手不足とともにまた、生産性の向上というのはコインの裏表、同じかもしれませんね。ということで、このイノベーションをどうやって生み出していくかということについては、これからも99パーセントの都内企業を占めている中小企業の皆様方がけん引役になると、このように思います。成長産業への参入であるとか、新たな価値を生み出す、それに向けた設備投資やIoT化、ロボットの導入など、生産性の向上など、中小企業を多面的に支援するということが、すなわち、東京にとりましても、東京の産業・経済にとっても重要と。そういう認識に立ちまして、引き続き、都といたしましても力を入れていきたいと考えております。

人手不足と人材育成について、これも今の課題と共通するところでございますけれども、特に若者や女性への中小企業の魅力の発信、それから、人材育成の取り組み、さらには、セキュリティの問題もございますが、テレワークの普及と安心して進めていくための施策などなど、総合的に取り組む必要があるかと、このように思います。幅広い取り組みを行うことによって、引き続き、中小企業の経営を東京都といたしましてもサポートしていく考えでございます。私のほうは以上でございますが、局長からどうぞ。

○司会（武市財務局長） ありがとうございます。その他に、税制のお話でございますとか、事業承継のお話でございますとか、あと、都市インフラの整備のお話、いろいろいただきました。全て、東京の成長、ひいては日本の成長に非常に大事な点だと思います。私も引き続き、しっかりと取り組んでいきたいというふうに考えております。

また、2020年のオリンピック・パラリンピック大会の成功に向けてというお話もございましたが、今まで一緒にやらせていただいておりますが、引き続き一緒にやらせていただいて、ぜひとも成功していきたいというふうに考えております。

私どもの、取りあえず、お話は以上でございますが、最後に何か、ございますでしょうか。

○東京商工会議所 東京都さんに非常にお世話になっている「経営改善普及事業」も一生懸命やっております、年間で今、10万件の事業者との相談をやっております。これに対してのご支援をまた、一つよろしくお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。それでは、よろしゅうございましょうか。では、以上をもちまして東京商工会議所の皆様との意見交換を終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

（東京商工会議所 退室）